

魅力 自然 あふれる

南大東島は数万年の時を経て形づくられ、数百万年前から移動の旅を、今も続けています。



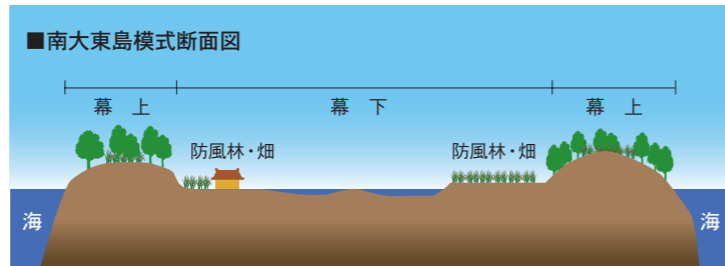
【国指定天然記念物】

東海岸植物群落

海軍棒地帯の東海岸植物群落は、赤道辺りに生息する南半球系の植物が多く茂っており、国内では大東島のみ生息しています。

世界に十数例しかない珍しい南大東島。

南大東は縁が高く中央部が凹んだ地形、つまりお盆を海に浮かべたような形をしています。この盛り上がった縁のことを「幕(はぐ)」といい、平らな部分は「幕下」、高い部分は「幕上」と呼ばれています。こうした島は世界的にも珍しく、隣の北大東島を含めて世界に十数例しかないといわれています。



※池の水位は海拔0mで、潮の干満によって上下します。

5500年以上の長い時を旅する南大東島は、今も年間7cmずつ西へと移動を続けています。

南・北大東島という2つの高い山が位置する、大東海嶺という海底山脈は、5500年以上前に、現在よりずっと南の太平洋の熱帯域で島孤(とうこ)として誕生しました。島孤というのは、プレートが沈み込む際に誕生した火山のつらなりです。沖大東島を含む沖大東海嶺も赤道付近で同様に島孤として誕生しました。

はるか昔、誕生した場所から、大東海嶺は北東の方向に、沖大東海嶺は北の方向に、それぞれが乗るプレートの移動に伴って動いていきました。沖大東海嶺が乗ったプレートが大東海嶺が乗ったプレートの下に沈み込もうとした時、2つの海嶺の西の端がぶ

つかって、沈み込みが止まったので今の形になったのです。いわばロックされたままの状態というわけです。

ロックされて一体となった大東海嶺と沖大東海嶺は、フィリピン海プレートの動きに乗って、毎年7cmずつ西へと移動しています。フィリピン海プレートがユーラシアプレートに沈み込む南西諸島海溝の手前でプレートが盛り上がり隆起帯ができていて、大東諸島は約600万年前からこの隆起帯の上に差し掛かっています。このため、頂上が海面に出ている状態になって、今のよう陸地ができたのです。



大池のオヒルギ群落【国指定天然記念物】

南大東の北部にある「大池」の北端周辺にある湿地帯には、数千本のオヒルギが群生しています。本来泥土質の海岸に生育するオヒルギが内陸部に分布する事は、この島の珊瑚礁の発達と地盤の変動の経過を示すものと考えられ内陸封鎖型のオヒルギとして特異な生態を現したものとして学術上価値が高いものです。



カルスト地形による国内有数の湖沼群

沖縄県内にある1ha以上の天然の湖沼は14個と考えられていますが、驚くべきことにそのすべてが南大東島にあります。これだけ多くの湖沼を持つ理由は、石灰岩の中の炭酸カルシウムが溶けてできるカルスト地形がもたらすもので、日本最大規模の湖沼群といわれています。

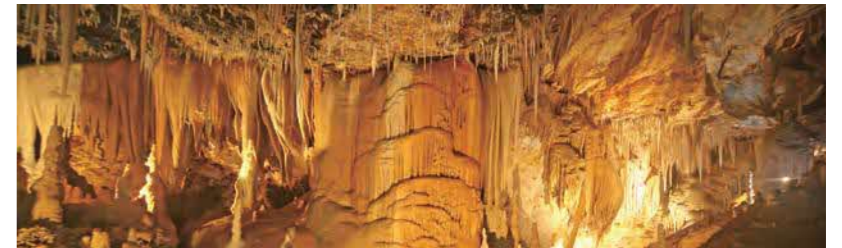
バリバリ岩

地殻変動で裂けた割れ目。そこには神秘的な世界が広がっています。



星野洞

照明と遊歩道が整備された洞内は、自然が創った奇跡の芸術の宝庫。シンと静まり返った空間に、聞こえてくるのは滴り落ちる水音と自分の足音だけ。地の底へ降りていくようなスリリングな冒険気分が満喫できます。



ダイトウビロウ

開拓当時は、島全体がダイトウビロウ樹で覆われるほど自生していましたが開墾の為、多くが伐採されました。



大東犬

大東犬は島の開拓者によって持ち込まれたもの。起源は不明ですが、その特徴として足がかなり短く、がに股です。ちょこちょこ歩く姿は可愛らしく南大東島のマスコットの存在。



南大東島の希少な動植物



↑ダイトウオオコモリ【国指定天然記念物】

南北大東島だけに生息する固有亜種。翼を広げると80cm以上にもなり、日本で一番大きいコモリ。南大東島のシンボリック的存在です。

ダイトウコノハズク →

南北大東島だけに生息する固有亜種。絶滅が危ぶまれます。



「ダイトウビロウとダイトウオオコモリ」は南大東島のヌシです。開拓が始まるはるか昔から島に住み、しかも世界で南北大東島だけを生産地とします。太平洋の真ん中の島で暮らす植物や動物は、他の地域との交流が絶たれて独自の進化をとげ、「世界でたった一つ」の種が数多く存在することになりました。



ダイトウヒヨドリ



ダイトウカイツブリ



ヤシガニ(アンマク)



ダイトウヒラタクワガタ



ホロシニシキソウ



ウスジロイソマツ